

お客様各位

株式会社アドフューテック

AT1320C 使用環境についてのお知らせ

拝啓 お客様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
また平素は弊社製品をご愛顧賜りまして厚く御礼申し上げます。

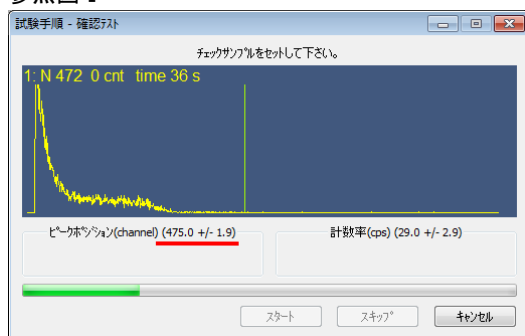
この度、ご使用していただいております測定器（AT1320C）の使用環境によって、不具合を起こすことがあります。
「確認テスト」中に下記症状が出る場合は、**別紙**にあります対処することにより、改善(予防)出来る場合がございます。
大変ご迷惑・ご不便をお掛けいたしますが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

記

<症状>

- ・測定開始時に行う、「確認テスト」でチェックサンプル（K40）のピークが出ない(参照図Ⅰ及びⅡ)。
- ・測定開始時に行う、「確認テスト」でチェックサンプル（K40）のピークポジションが規定のチャンネル(ch)から高 ch もしくは、低 ch にかけて離れている。(参照図Ⅲ)

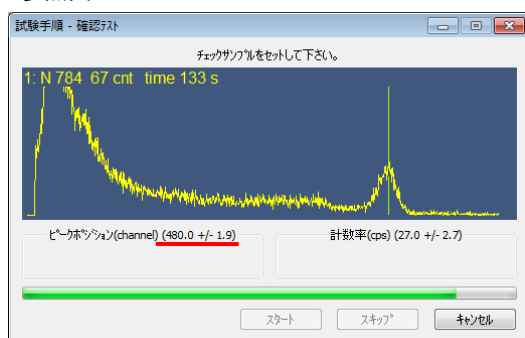
参照図Ⅰ



参照図Ⅱ



参照図Ⅲ



<原因>

- ・高温又は、高湿度の為、検出器が不具合を起こしている可能性があります。※多湿の原因が多いです。

<対応策>

- ・検出器の使用可能環境に整えてください。

①周囲温度：0℃～40℃以下にします。

②検出器：結露なし 30℃、相対湿度 75%以下にします。

※気象予報などで一般的に使用されるのは**相対湿度**です。

※温度、湿度は出来るだけ低いほうが望ましい。

- ・既に症状が出ている場合は**別紙**を参照に検出器内の湿度を下げることを推奨します。
- ・症状が出ていない場合も、検出器汚染防止の意味を含め、ビニール袋等で、検出器ごと覆い、その中に乾燥剤等を入れ多湿にならないように封をします。

敬具



株式会社 アドフューテック

Advanced Fusion Technology Co., Ltd.

AT1320C 検出器除湿・対処方法

除湿方法及び、湿度対策についての参考資料として、説明いたします。

I. 除湿方法：既に「確認テスト」でチェックサンプル（K40）のピークが出ない（ピーク ch が規定内に入らない）

<必要なもの>



- ① ビニール袋サイズ 250 x 600mm 以上 数量 1
※幅、厚みがありますと容器に収まらなくなります。写真は 400 x 600mm サイズを使用しています。
- ② 水切り袋 数量 4
※乾燥剤を入れる袋で、網目の細かいものを使用しています。
- ③ 乾燥剤 数量 250g
※説明には、シカゲルを使用し湿気を帯びると色が変わるものを使用しています。
- ④ 湿度計 数量 1
※小型のものを使用しています。

[I -1] 乾燥剤小分けを作ります。



- ③を②に小分けします。
- 1 袋約 50g 程度にします。

[I -2] 検出器を袋にかぶせます。



袋のあまった部分を薄い強粘着テープ(青色)で止めます。

写真では除湿後そのまま使用出来るよう KCL に差し込んで確認しております。

[I-3]乾燥剤を入れます。



乾燥剤と湿度計をいれます。

余計な空気を出し、袋をなるべく密封状態にします。

[I-4]除湿作業を行います。

乾燥剤を入れた検出器を、なるべく低温湿で約 24 時間程度除湿作業を行ってください。

乾燥剤の量や、検出器内の湿度具合等によって除湿時間は変動いたしますのでご注意ください。

[I-5]除湿完了の確認

袋をつけた状態で、確認テストを行ってください。乾燥剤等は出しても構いません。

リトライ、再スタートを数回行ってください。

30 分程度行っても規定の位置付近にピークが出ない(来ない)場合は、再度除湿作業を行ってください。

「妥当なパラメータです」となれば完了です。

数乾燥剤の量や、検出器内の湿度具合等によって除湿時間は変動いたします。

長期除湿作業を行っても変化が無い場合は、高温湿度の不具合で無い場合がございます。

その場合は、弊社までご連絡くださるようお願いいたします。

Ⅱ. 湿度対策：方法をご説明いたします。

[Ⅱ-1]接続



I-5 除湿完了の確認の状態で乾燥剤(任意量)と湿度計を入れてください。

[Ⅱ-2]完了図



余計な空気を抜き封を閉じて完成です。

